

第16回 震災対策技術展開連講演会（横浜）

平成23年度市民講座開催企画「津波と建築」

- ・日 時：2012年2月2日（木）13:00～16:00
- ・場 所：震災対策技術展・パシフィコ横浜・アネックスホール（横浜市西区みなとみらい1-1-1）
- ・主 催：社団法人日本建築学会 災害委員会
- ・参加費：1,000円（資料代）
- ・定 員：200名

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、死者・行方不明者合わせて3万人という、戦後日本が経験したことの無い規模の被害が発生した。最大で標高40m近い高さにまで遡上した津波が、大きな被害を発生させたのである。これまで津波の防災対策の中心は、防波堤・防潮堤といった土木構造物であった。しかしながら、今回の災害から、1000年に一度の巨大津波に対し構造物だけで被害を無くすことはできないことが明らかになり、土地利用規制、避難対策も含めた総合的な津波防災対策の構築が求められている。

この講座では「建築」（建築構造物、土地利用）という観点から、1) なぜ建築物は津波により倒壊したのか、どの程度の津波に耐えられるのか、2) 木造建築物はどうであったのか、3) 津波による火災の被害はどうであったのか、そして4) 災害からの復興においてどのような土地利用規制が考えられるのか、といったことについて、これまでの研究から明らかになったこと、今後の対策の方向性について解説するとともに、研究成果を踏まえた今後の総合的な津波防災対策のあり方について考える。

・プログラム（敬称略）

時間		担当	タイトル	キーワード
13:00	挨拶	平石久廣（日本建築学会・災害委員会委員長、明治大学）		
13:10	基調講演	中埜良昭（東京大学生産技術研究所）	津波と建築（60分）	津波による建築被害と発生メカニズム／津波避難ビル／今後の対策
14:10	休憩			
14:30	PD	牧 紀男（京都大学防災研究所）	趣旨説明（5分）	
		植本敬大（国土交通省国土技術政策総合研究所）	津波による木造建築物の被害（20分）	木造建築物の被害と今後の対策の方向性
		小林恭一（東京理科大学火災科学研究センター）	津波による火災被害（20分）	火災被害の発生メカニズム、実態と今後の対策の方向性
		姥浦道生（東北大学）	津波防災対策と土地利用規制（20分）	復興計画における土地利用規制の考え方
	討論	入江さやか（NHK報道局災害・気象センター）	専門家へのコメント（10分）	専門家の講演に対する疑問点の指摘、今後の研究の方向性への提言
15:45	全体ディスカッション「建築と津波防災」（国で検討している津波防災に関わるガイドラインに向けての討論） コーディネーター：牧 紀男（京都大学防災研究所） 基調講演者＋PDパネリスト＋討論者			
16:25	終了挨拶	牧 紀男（京都大学防災研究所）		
16:30	終了			

司 会：岩見達也（国土交通省国土技術政策総合研究所主任研究官）

記 録：田中 傑（東京理科大学研究員）

申込方法：下記サイトよりお申し込みください。

<http://www.exhibitiontech.com/etec/seminar-yokohama.html>

問合せ：日本建築学会事務局 小野寺

e-mail: onodera@aij.or.jp TEL03-3456-2051